

「住み慣れた街で生きて逝く」



ケアタウン小平チーム10年の取り組み

2016年7月24日(日)



ケアタウン小平クリニック
山崎章郎

病院で死ぬということ(1990)

多くの場合

- ・苦痛の緩和: 不十分
- ・病名・病状: ほとんど偽りの説明を受け
- ・治癒・延命を目指す病棟で
過剰な延命治療を受けながら
亡くなる間際に蘇生術を受け、 旅立っていった
- ・療養環境: 大部屋で過ごし、亡くなる間際に個室
- ・人間らしい人生の終末期とは言えなかった



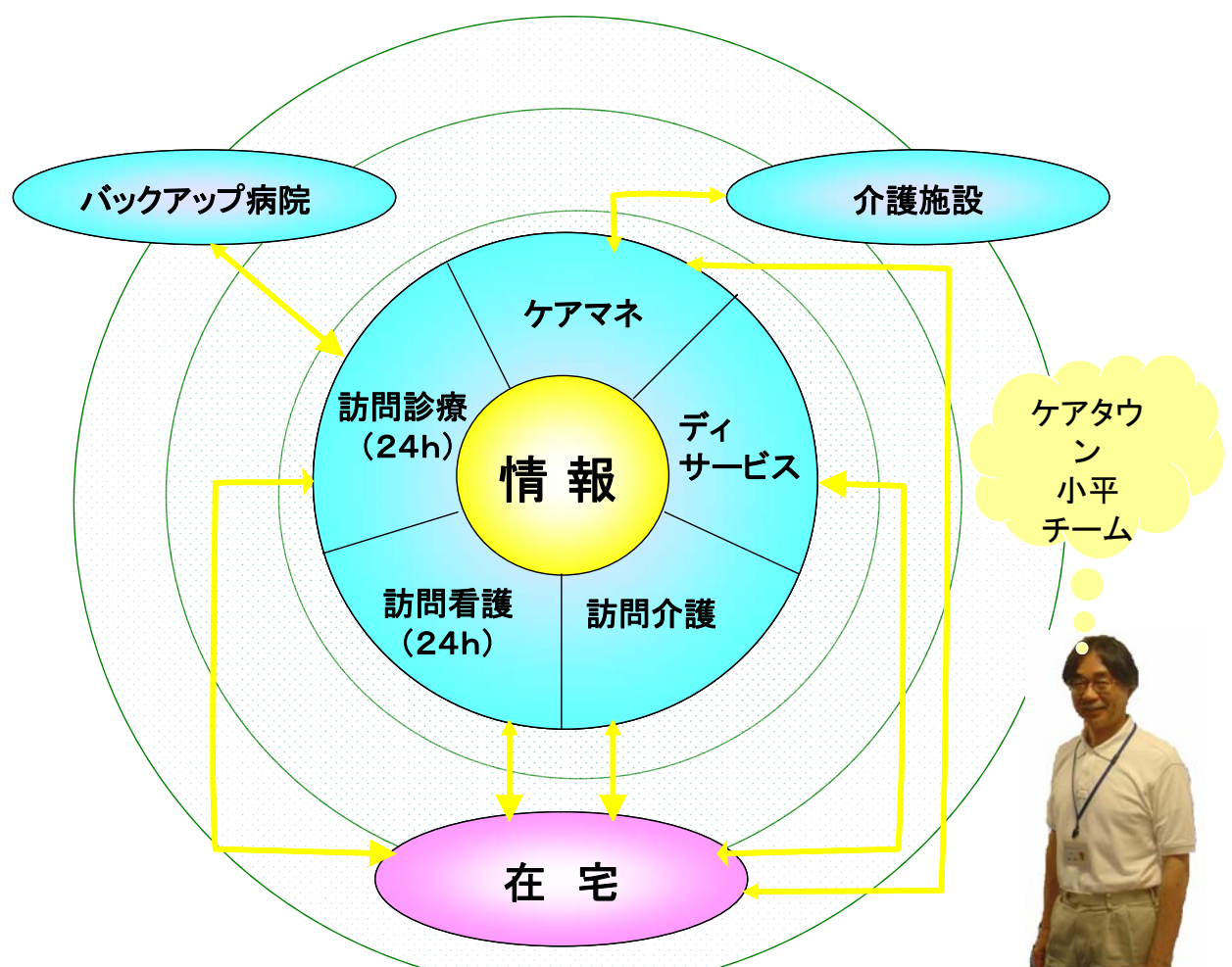
ホスピスケアが目指したこと

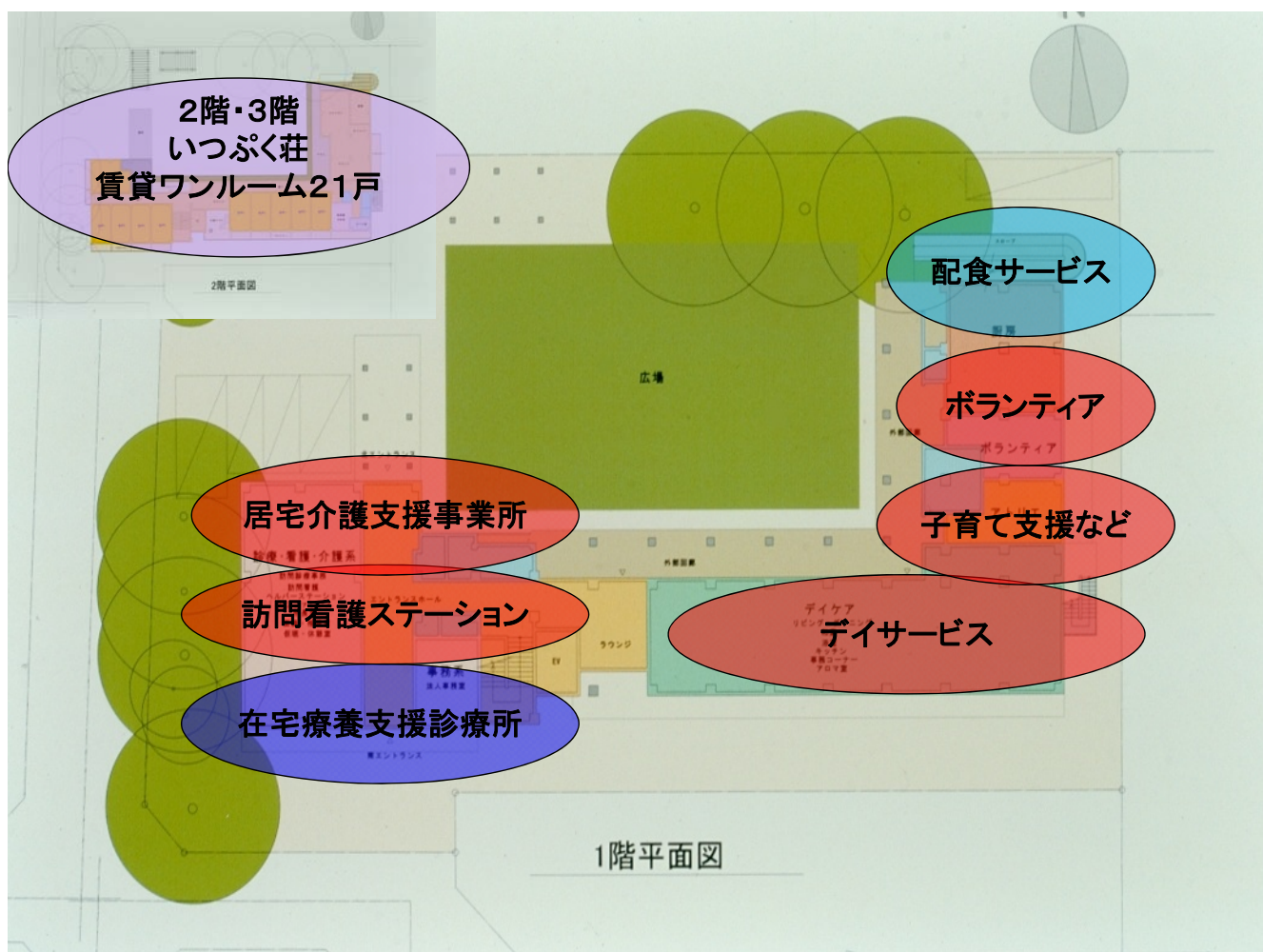
- ・まずは心身の苦痛症状を可能な限り和らげること
- ・たとえ、時間が限られていたとしても
人間らしく、自分らしく生きることができるように
今起こっていること、これから起きることなど
本人の求めに応じて、うそをつかずに、適切に伝え
その情報のもとに、本人が決めた、死ぬまでの生き方、過ごし方を
チーム（医療、看護、栄養士、薬剤師、ソーシャルワーカー、宗教者。
ボランティアなど）で支援した
- ・少しでも自宅に近いように療養環境を整えること
- ・ご家族（ご遺族）を支援すること

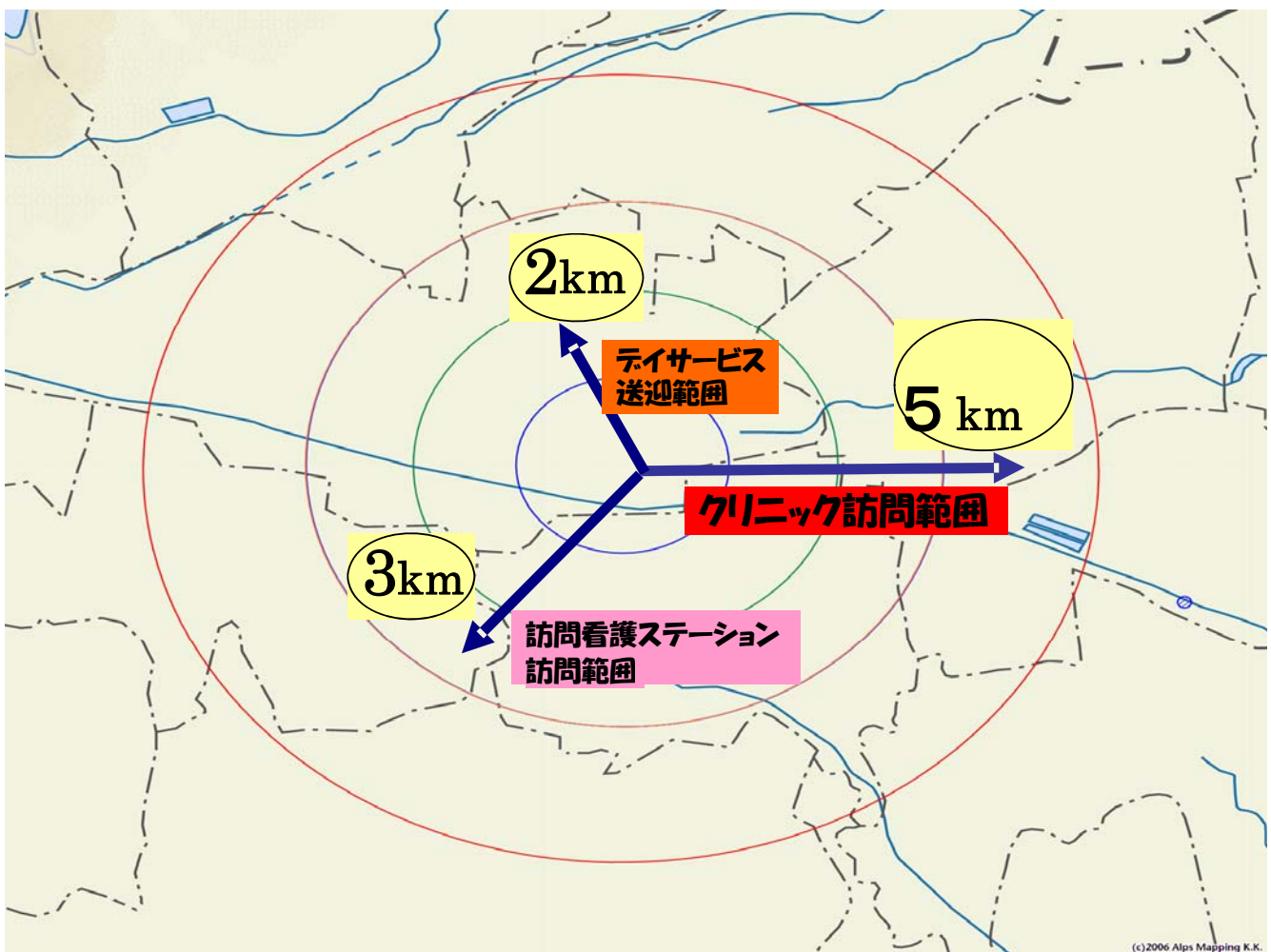
ケアタウン小平チーム その始まりはホスピスだった

- ・ホスピスでケアを受けることができて
本当に良かったです
- ・でも
本音を言えば
家にいたかった

ケアタウン小平チームの取り組み

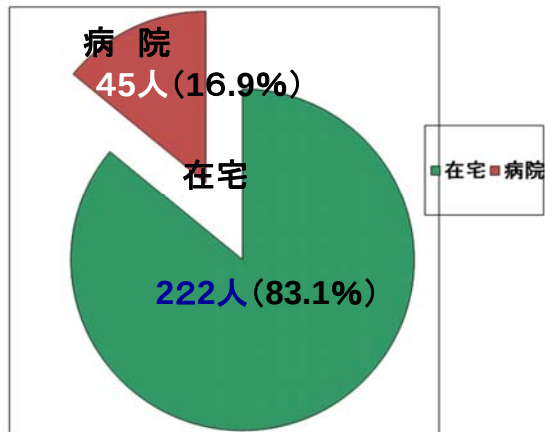




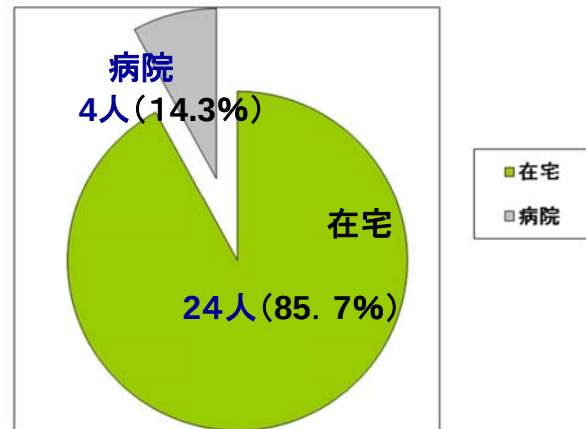


在宅看取り率 直近3年間 (H25年4月～H28年3月)

がん患者 267人中



非がん患者 28人中



2013.1～2015.12

ケアタウン小平クリニック

家で死ぬということ

- 1: 何時でも主人公
(自由である)
- 2: 過剰医療が避けられる
(自然経過としての死)
- 3: 苦痛が軽減する
(適切な緩和ケアは前提)
- 4: 変化する家族の力

ケアタウン小平チーム活動エリア内に

毎年、在宅看取りを経験した

約80ご遺族が誕生



遺族会 「ケアの木」誕生

ケアの木かたろう会



ケアタウン小平スタッフ・ボランティア交流会



見えてきた課題

独り残された私は

誰が看取ってくれるのでしょうか？

独居でも最期まで自宅で過ごせる条件

- 1) 24時間対応の専門的医療・看護があること(医療保険)
- 2) 亡くなるまで、何らかの介護があること
 - ①訪問介護(介護保険)
 - ②家族・親せき
 - ③知人・友人
 - ④ボランティア
 - ⑤自費ヘルパー
- 3) 費用負担 民間がん保険 在宅緩和ケア給付金
 - ①アメリカンファミリー生命保険(2001年)
 - ②プルデンシャル生命保険
 - ③明治安田生命

「いつぶく荘」という解決

2005年10月から2016年6月まで

ケアタウン小平クリニック死亡診断死亡場所
「いつぶく荘」 19名

- ・がん: 15名
- ・老衰: 2名
- ・その他: 2名

「ホームホスピス」という解決

- ・2014年4月 東京都小平市に
「ホームホスピス樺(ゆずりは)」(定員5人)オープン
- ・原則として、疾患・年齢問わず、一人暮らしが困難になった人々が
地域の人々の支援を受けながら、共同生活を営む、終の棲家
- ・宮崎ホームホスピス「かあさんの家」がモデル
- ・マンション一階(一部2階)改修(日本財団助成事業)
- ・ケアタウン小平チームの活動エリア内

ケアタウン小平チーム その他の事業

地域の皆さんとの勉強会

テーマ:「住み慣れたところで、安心して生きること、死ぬことを考える」

対象:ケアタウン小平近辺の皆さん

定員:15~20名

全4回(毎月1回):1回2時間、参加費(資料代)

場所:団地集会所、公民館など

1回目)グループワーク「いま困っていること、悩んでいること、不安なこと、今後どうしたいか」

2回目)講義:訪問診療、訪問看護の実際

3回目)在宅看取りを経験を聞く
「ケアの木」のご遺族

4回目)グループワーク「終活について」



子育て及び子供の教育に関する相談支援事業 —あつまれ子供広場の日—



みんなの笑顔が
ここからつながる。

ケアタウン小平の在宅ホスピスケアは10年目を迎えました。
ホスピスケアは、つながりを育むケア。
どんなつながりが育まれているか、見に行きましょう。
ケアタウン小平でお待ちしております。

**ケアタウン小平
応援フェスタ 2014**

10月19日(日)
(11:00 ~ 15:15)
(雨天決行)



みんなの願いを大空へ



ケアタウン小平チームが目指すことは

最期まで住みたいコミュニティを創ること

**それは、たとえガンの末期であったとしても、
認知症であったとしても・・・**

**最期まで、人権を守られ、
尊厳と自立（自律）をもって
人間らしく暮らせることを
保証するコミュニティである**